

2020年度

三重大学 人文学部法律経済学科

## 特殊講義 「協同組合論」



<第10回(ZOOM)>

### 「世界の協同組合」

天野 晴元／日本生活協同組合連合会 国際部部長

第10回(12月7日): 受講46名(市民開放授業一般受講者等を含む)

世界には300万程の協同組合がある。ICA(国際協同組合同盟)には、109か国310の組織が加盟している。また、組合員数は世界全体で12億人と言われており6人に1人が組合員である。また2.8億人が協同組合で働いており雇用人口の約10%にあたる。今回の講義では、世界の様々な生活協同組合や、各種の協同組合を紹介する。

#### 【第10回/講義の要旨】

- ・国連は、協同組合の発展に支援的な環境づくりをめざしたガイドラインを策定しており、各国政府に対し協同組合への環境整備等を要請している。2012年は国際協同組合年に設定され、2016年には協同組合の思想と実践がユネスコの無形文化遺産に登録された。
- ・スイスには、コープスイスとミグロの生協があり、国内のマーケットシェアは約8割を占めている。イギリスにも様々な生協があり食品等の小売、旅行、葬祭、保育園、電力小売等の事業を展開している。倫理性を重視した事業運営、動物福祉やフェアトレード、生活弱者や学校支援等に取り組んでいるのが特徴的である。イタリアには、コープイタリアに加盟する生協が国内マーケットシェアの約2割を占めている。組合員との関係を大事に消費者運動や行政への提言、生活弱者への支援等を積極的にすすめている。また、スペインには、モンドラゴン協同組合があり働く人と消費者が共になってつくる生協もある。
- ・シンガポールのフェアプライスは、消費者の利益と生活の安定を大切に事業や活動を展開しており、国内のマーケットシェア50%以上を占めている。韓国のアイコープは、国産の農産物を重視し、食の安全や環境保護、倫理的消費をすすめている。また、アメリカは協同組合が世界で一番多い国である。小さな生協が多いが、オーガニックや地産地消を大切に商品を提供し、組合員は生協での一定時間の労働を義務化している生協もある。
- ・労働者協同組合は、同じ目的を持つ人々が出資(設立)し、働き、経営する能力を出し合い、かつリスクと責任の両方を共有している。世界には、このような協同組合がたくさんある。日本でも法制化が整い、これからの広がり期待する。社会的協同組合では、コミュニティの全般的利益を追求している。特に、社会的サービスの提供や、雇用の創出に向けた社会的弱者の包摂がすすめられている。コミュニティ協同組合は、主に過疎地や都市部の経済的に不振な地域で協同事業をおこなっている。また、小口金融協同組合も世界にたくさんある。インドでは女性が自立できるよう女性だけの協同組合が組織され、小口金融協同組合の資金融資等で事業をおこなったりしている。

## 第10回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・世界の生協のその国内におけるシェアが想像以上に大きかったことに驚きました。講義の中で日本の小売業界では高くとも1割を超える程度のシェアというお話でしたので、正確なデータが気になって調べて見たところ、2018-2019年の小売業の日本国内シェアは一位のイオンが13.9%、二位のセブン&アイ・ホールディングスは11.1%、三位のファーストリテイリングが3.5%といったものでした。これらの数字を見ると、イタリアやシンガポールといった国の生協の影響力がいかに大きいかがよく分かります。その上、イタリアの生協は社会改革や消費者運動に熱心であることも知りました。そして、国が担っているような公共全体への利益、幸福となるような事業をこのように大きな影響を持っている組織が率先してやる、これがこれからの社会に必要とされる組織のあり方、これからの社会においてなくてはならない存在であることを、同時に強く確信しました。
- ・世界の協同組合には規模が大きいものから小さいものまで多く存在し、それぞれが組合員や地域、コミュニティのニーズに合わせて活動をしていることが分かった。日本の協同組合で学んだように世界でも同じように、相互扶助があってこそ、組合での活動が成り立っていることが分かった。日本とも、また世界の各国ごとで違いがあって日本でいうJAのような金融事業を行っている協同組合が世界にも存在しているなど共通点も発見できた。
- ・世界にも多くの生活協同組合が存在し、日本とは違った立ち位置や必要とされる形態であって、様々な姿で生協が存在していることをとても興味深く感じた。特に、イギリスでは葬祭の活動をしているということに驚いた。日本と同様の労働者協同組合だったり、社会的協同組合といった各国は行政からの事業受託や自ら仕事を創造することで失業した人や生活に困っている人々に対しての雇用創出が行われている。コミュニティ協同組合は経済的に不振な地域での必要とされている事業を協同組合方式によって行っており、地域の人々の生活をよいものに支援している。日本にはない協同組合であるが、こういった体系の協同組合もどんどん出てきたらよりよい生活ができる地域が増えるのではないかと感じた。日本も外国の小口金融協同組合のように自由度の高いようになればより良い事業が行えるようになるならば、その点見習ったほうが良いと思った。
- ・イギリスの生協についての話があったが、倫理性を重視した事業運営を行い、動物福祉やフェアトレード、社会問題に対する取り組みをしていることがとても大切なことであると感じた。業種例として食品等の小売、保育園の運営などが挙げられるが、特に、保育園という子どもが集まる場所において倫理性は何よりも大切であると考えた。また、公的な学校に対しての私的な組織が支援しているという構図も日本にもっと導入されるべきものであると思う。子どもや社会的弱者を守り、社会を豊かに、誰一人取り残さない社会を実現することにおいてイギリスは先進的であると考えられる。イタリアの生協も高い商品力を強みとした活動によって国内小売シェアの20%ほどを持っていることから、国内で大きな影響力を持っていることが分かった。スペインでは、働く人と消費者のどちらも組合員であるということが強く出ていると思う。シンガポールでは、生活費の安定が社会的なミッションとされており、CSRの4つの柱を強く意識していることが分かった。自分たちのニーズを満たすために、生協を作るということは、協同組合を増やすという点においては必要なことであると感じた。労働者協同組合は、同じ目的を持つ人々が出資し、働き、自分たちで経営しているとあったが、リスクと責任の両方を共有しているため、独裁が起りにくく、公正な活動ができているため資金面では弱い、その点を除けば理想的な協同組合であると思う。しかし、これは収益性を重視しない協同組合であるからこそできることであり、収益性を重視する企業は根本的な改革をしない限り、協同組合のような理想的な運営はできないと感じた。

- それぞれの国で生協にも独自性があり、また国としての経済規模と生協の事業規模は必ずしも比例しないということがわかった。ただ、市民の生活・社会的弱者の支援や地域への貢献など、やはり根本の部分は共通しているように思えた。
- 協同組合がこんなに多く世界に存在していることに驚きました。また国によっても特徴があることがわかりました。例えば、イギリスでは生活弱者や消費活動が困難な人に手厚く、イタリアでは社会改革や消費者運動を特に支援しています。またスペインのバスク地方では出資型の生協でも働く人と消費者がともに組合員であるという珍しい構成でした。また、小口金融協同組合は日本では馴染みがなく、初めて聞きました。金融を扱うことで、組合員の生活で細やかな支援ができる一方で、用途が特定されず無限であるため、支援を受ける側も注意しなければならないと思いました。
- 海外では生協に対する知名度が日本に比べてより高く、また事業に対して積極的だということである。このような違いは、日本では協同組合の種類によって、省が分かれていることが原因の一つであるとおっしゃっていたが、国民やその国自体がどれほど協同組合に対して関心を持ち、協同組合が行う事業に対して肯定的なのかが大きいと思った。また、今回の講義の中で印象に残った事業は二つある。一つ目は、イタリアで行われている罪を犯した人の雇用を創出したり、刑務所と社会をつなぐ架け橋になったりするという事業である。犯罪者の社会復帰・更生を手助けするような協同組合は初めて聞いたので、なぜそのような組合を作ろうと思ったのか、そのきっかけについて聞いたみたいと思った。二つ目は、金融を行うという事業である。協同組合は、どちらかといえば融資してもらって事業を行うというイメージがあり、協同組合自体が融資を行ったりするということに驚いた。
- 協同組合の法律に関して、海外が一本化しているのに対して、日本は協同組合の法律が多数乱立していることで協同組合にさまざまな制約がかかり、協同組合が動きづらい原因になっていると感じました。また、今回の講義で海外の協同組合の取り組みの例などから、小さな協同組合でも特定の地域や特定の人々に対する影響力がかなり大きいと感じた。
- 日本だけでなく、世界での協同組合の取り組みを見ていくと、国によって重点的においている部分が異なるが、どの国においても現在直面している社会問題やこれからの社会に対して生協の取り組みが重要な立ち位置となってくると感じられた。このコロナ禍で形は異なるが、生協が人々の支援となっていることが大切であると感じた。
- イタリアに多い社会的協同組合は、障害者雇用の問題を扱うなど、NPO法人に似た性格があるように感じました。労働者協同組合法の成立についてですが、これは新型コロナウイルスの影響により打撃を受けた雇用状況の受け皿になるとニュースで聞きました。家事をしながら週3日でパートをしていた女性が、次に働く場所が協同組合というのは素敵だなと思いました。
- 世界各地にも様々な生協の様式や特色があり、それぞれの国にあった生協が展開されていると感じました。特に、組合員が生協の店舗で実際に労働を行わないと組合員として店舗を利用することができないというのは、運営しているという実感を沸かせるとともに、経営に関与することでより生協のことに對して真剣に考えることができ良いと思いました。
- 今回の講義では世界の協同組合について知れてとても興味深かったです。何事においても広い視野を持ち、様々な角度から考えていくことによって更なる発展に繋がるということを再認識出来ました。色々な国に協同組合や生協がある事はなんとなく親近感を感じました。また、アメリカの協同組合員数が多いことに驚きました。資本主義であるにも関わらず、協同組合が発展しているということは、人々は協力して生活していくことを望んでいるのかなと感じました。

以上